

株式会社ファミリーマート 御中

ベトナム社会主義共和国
ホーチミン市における貧困区での
災害に強いコミュニティづくりプロジェクト

完了報告書



2015年6月
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要

事業名	ホーチミン市における貧困区での 災害に強いコミュニティづくりプロジェクト
対象国・地域	ベトナム ホーチミン市 ニャーベー区、カンザオ区
事業期間	2014年5月1日～2015年4月30日
予算	6,250,000円
受益者	5歳～14歳の子ども2,300名及び5,000名の地域住民
事業目的	学校及びコミュニティの防災知識と気候変動への適応能力を向上し、 子どもと地域住民の自然災害への耐久・回復能力を向上させる。

2. 事業の成果

当事業はベトナムにおける防災・気候変動事業の第2期目です。本年度は災害が慢性化している都市部（ホーチミン市）の貧困区に集中して事業を実施しました。

第1期の終了時に挙げられていた課題のひとつである子どもの水泳能力に関しては、本年度においてはカンザオ区での事業実施許可取得が遅れたため、ニャーベー区のみでの実施となりましたが、ニャーベー区においては当事業の中で週3日間の水泳教室の日を学校カリキュラムの中に設けた結果、事業開始前はほとんど泳げる子どもがいなかった当事業対象校において42%（678何人/何1,610人）の子どもが泳ぎを取得するという成果をあげることができました。

また、もうひとつの課題であった災害時の生活基盤の整備に関しては、地域の災害対応能力の調査に基づき、洪水が慢性化する地域において7世帯が台風や洪水の影響を受けやすいエビや魚などの海中生物の養殖からヤギの飼育への生計手段の転換を図ることができました。さらに、事業対象校全校において安全な学校づくり計画が策定され、教員、村人、子ども、行政官の防災知識の向上が見られることから、事業目的である「子どもと地域住民の自然災害への耐久力・回復能力向上」を達成することができたと考えています。

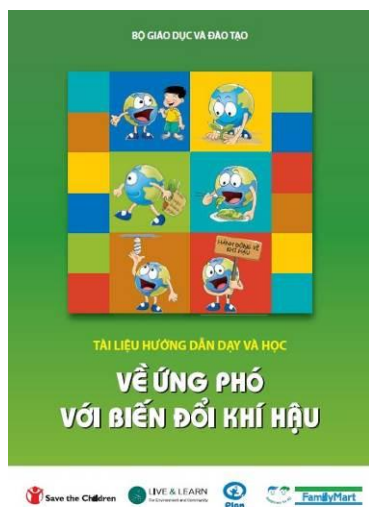
3. 活動進捗

活動1. 生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり

1-1. 学校及びコミュニティへの防災ガイドブックやマニュアルの配布

学校の防災教育で使用する防災ガイドブック及びフリップチャート教材を作成し、防災／DRRガイドブック、気候変動／CCAガイドブック、気候変動フリップチャートの3種を各50冊印刷し、合計150冊を全対象校（5校：ニャーベー区2校、カンザオ区3校）に配布しました。2種のガイドブックには防災及び気候変動の定義や災害にどのように備えるか等の基本的な知識がまとめられ、フリップチャート教材は、ガイドブックの補完教材として、絵や写真で基礎知識の理解を助けるように構成されており、それぞれに子どもが理解しやすいよう、ゲームやクイズ等が盛り込んであります。これらの作成にあたっては、ベトナムで活動する国際援助団体及びベトナム政府から成る防災ワーキンググ

ループが使用し、教育訓練省から既に承認を受けている教材を基にし、それを当事業対象地域において想定される自然災害（主に台風、洪水被害）に合わせて改善しました。配布された教材は、授業や課外活動で教師が子どもに防災・気候変動の知識を教えるために使われ、防災子どもクラブでも活用されました。



教師向け教材（気候変動）

教師向け教材（防災）

子ども向け教材（防災、気候変動）

1-2. 教員への安全な学校モデル及び救命救急研修の実施

ニャーベー区及びカンザオ区双方において、学校教員及び校長、教育訓練局の行政官計50人が、安全な学校モデルと救命救急に関する2日間の研修に参加し、「安全な学校モデル」推進に必要な知識やツール、救命救急（人工呼吸、けが人応急処置、救命胴衣の装着方法など）の実践的スキルを学びました。同研修を受講した教員は、当会スタッフおよび赤十字の職員と共に、対象地区の小学校3校、中学校2校の子どもたち150人（男女各75人）を対象に同様の研修を実施しました。研修を受けた子どもは、防災子どもクラブを通じて、研修で得た実践スキルを他の子どもたちに伝えていくことができました。

1-3. 教員及び生徒の参加型での安全な学校づくり計画の作成

2015年1月及び3月、対象区2区にある全対象校5校において、「安全な学校づくり計画」が策定されました。同計画の策定には、2区合計で子ども100人、教員75名だけでなく、教育訓練局の行政官、また子どもの保護者50名が参加しました。現在学校が抱えている災害リスクやその対策とともに、地域の中で学校が防災において果たすべき役割等（緊急時における地域の避難場所としての役割など）について話し合いが行われたほか、災害が起こりやすい時期を特定したカレンダーの作成や、過去の災害に関しての地区での対応をまとめました。これらの情報をもとに、災害への備え、緊急時の対応策、そのために必要なアクション・プランをまとめた「安全な学校づくり計画」を策定しました。この計画は、教育訓練局にも共有され、今後も計画に基づいて定期的に避難訓練などの活動の取り組みが行われるとともに、毎年計画の見直しと更新が行われる予定です。ま

た、対象地区の教育訓練局は、学校を拠点に防災への備えや災害時の対応を強化し、子どもの安全を確保する本事業のモデル（「安全な学校モデル」）を評価しており、同地域の他の学校で同様の活動を行う意欲を示しています。

1-4. 子ども防災クラブ活動の実施

ニャーベー区、カンザオ区対象校 5 校で合計 25 の防災子どもクラブが設立されました（1 クラブあたり 20 人、1 校に 5 クラブ）。これらのクラブでは、月 1 回放課後に有志の子どもが 10 名～20 名集まり、歌やゲームを通じて防災の知識について学ぶ活動を行っています。上記 1-2. の研修に参加した子どもが研修で学んだ事を発表する機会を設け、研修に参加していない子どもが安全な学校モデルや救命救急について学ぶことができました。この活動を通して、クラブの子どもたちからは、他の子どもに伝えていく作業を通じて、より防災の知識を深めることができただけでなく、伝え方、プレゼンテーション・スキルなども身につけることができ自信がついたといった声が聞かれました。また同クラブ活動のほかに、避難訓練も実施し、各対象 2 区において合計子ども 1000 人、教員、学校職員 100 名、保護者 100 名及び行政官が参加しました。その後、避難訓練での学びを元に、上記 1-3 で策定した「安全な学校づくり計画」の見直しを行いました。

1-5. 子どものための着衣水泳教室の実施

事業開始当初は当事業対象 2 区において水泳教室を実施する予定でしたが、第 3 四半期報告書にてご報告申し上げた通り、カンザオ区における政府の事業許可取得が遅れたため、本年度は水泳教室はニャーベー区のみで実施し、カンザオ区においては水泳教室実施のための資材等の購入のみ行いました。

ニャーベー区の Nguyen Ban Tao 小学校及び Hiep Phuoc 中学校において 2014 年 11 月より、子どもの着衣水泳教室を開始しました。週に 3 日間のコースを 1 か月間学校カリキュラムの中に設け、1 日 3 回のローテーションを組み、1 回 20 人の子どもが体育教師から様々な泳ぎ方を学びました。開始当初は約半数の生徒が泳ぐことができませんでした。1 か月のコースの修了時には、ニャーベー区では 678 人の子どもたち（対象校 2 校の全生徒数 1,610 人）がビート板や浮き袋を使用せずに 10 メートル以上泳ぐことができるようになりました。同コースを終了後、地域の水泳教室に登録し、更に泳ぎを学んでいる子どもたちも出てきています。

一方、カンザオ区の学校では、水泳教室実施する際の安全面を確保するため、地域の自助努力によるフェンスや屋根の設置などプールの周りの環境整備に注力し、水泳教室は、来年度から実施いたします。

活動 2. コミュニティにおける災害対応及び気候変動適応能力強化

2-1. 災害対応能力アセスメント（事前調査）の実施

ニャーベー区においては 2014 年 9 月、カンザオ区において 2015 年 3 月、災害対応能力のアセスメント（調査）を実施しました。両区合計で地域住民計 185 人、学校に通う子

どもたち計 48 人が参加し、区の人民委員会および教育局も参加しました。それぞれの対象区における気候変動の影響を洗い出し、それらに適応するためにはどのような新しい生計手段が考えられるのか、その可能性を探りました。アセスメントには学校に通う子どもも参加し、雨の降り出し時期の変化や洪水時に水が引くスピード等、子どもの観察力も活かされました。また、ニャーベエ区では近隣にできた靴の製造工場の排水の影響により川や池が汚染され、これまで生活の糧であった魚が獲れなくなった事が確認されるなど、アセスメントの結果は気候変動以外の分野にも及びました。

アセスメントの中で、現在多くの世帯がエビや魚などの海中生物の養殖などで生計をたてているものの、海中生物の養殖は洪水や台風、環境汚染などの外部要因に左右されやすいことが確認されました。当事業実施前の調査では、災害に強い農作物の導入も検討されたものの、当事業実施地域は塩害が激しく、且つ乾期 6 ヶ月間は灌漑の水も干上がってしまうことが分かり、代替生計手段としては作物よりも家畜の方が適しているという結論に達しました。当事業対象地域はホーチミン市の中でも貧困層が集まる貧困区であるため、費用がかかり、大きな飼育スペースを必要とする牛や水牛などの大型家畜の飼育は難しいことから、雑草を主食とし、餌代がかからず、且つ出産サイクルが早く現金収入になりやすいヤギの飼育をパイロットで行うことになりました。

2-2. 災害に強い作物の試験的導入

2014 年 11 月、ヤギ飼育を既に導入し成功しているティエンザン省を視察するためのスタディーツアーを実施しました。ニャーベエ区から 11 名、カンザオ区から 15 名の村人が参加し、ティエンザン省の村人と気候変動の影響やヤギ飼育のリスクやメリットなどについての意見交換を行いました。

また、2015 年 1 月には最初のヤギ飼育研修が実施され、ニャーベエ区とカンザオ区合計で 45 名の村人が参加しました。ヤギは他の家畜と異なり雑草を食すため餌代がかからず、また病気にも強いことから、研修に参加した村人は飼育の実施意欲を高めていました。2015 年 2 月にニャーベエ区及びカンザオ区両方で合計 7 世帯(ニャーベエ区 3 世帯、カンザオ区 4 世帯)にメスヤギ 1 頭、オスヤギ 1 頭の計 2 頭ずつの提供を行い、最初の飼育を開始しました。尚、このパイロットに参加した 7 世帯の選定にあたっては、①貧困世帯で且つ 18 歳以下の子どもがいる世帯、②病気の家族や何らかの理由で働くことができない家族を抱える世帯が優先的に選ばれました。2 月にヤギを提供したばかりであることから、まだ子どもが生まれておらず販売の事例は確認できていませんが、多くの世帯が関心を寄せており、当対象地域での災害への耐久性、回復能力を今後更に高めてくれることが期待されます。第 3 期においても引き続き当活動をフォローアップしていく予定です。

4. 裨益者の声



フォンガムさん

(ニューベエ地区 Hiep Phuoc 中学校 6 年生 女の子)

「避難訓練、防災クラブなど防災の様々な活動に参加しましたが、水泳教室が一番、楽しかったです。泳ぐのが好きですが、今まで泳ぎ方が分かりませんでした。今は泳げるようになり、楽しいですし、自信ができました。」

フォン先生 (男性)

「フォンガムさんは、足に障がいがあり、他の生徒よりも習得に 2 倍の時間がかかりました。でも彼女はあきらめませんでした。今では長い距離を泳げるようになっています。」

5. 今後の展望

ニューベエ地区においては、2 年間の事業実施を通じ、活動の実施手法等の行政への移管が進んでいます。区の教育訓練局は、当事業の実施手法をモデルとして、安全な学校モデルを他の学校でも実施していく計画です。

一方、2015 年 2 月より当事業を開始したカンザオ地区においては、活動の遅れもあったことから、防災対策や、人々の防災に対する取り組みが未だ十分ではありません。現地住民及び政府双方より強い要望があることから、2013-2014 年の成果や学びを活用しながら、2015 年はカンザオ区において 5 つの小中学校 (小学校 3 校、中学校 2 校) への防災教育および災害に左右されにくい生業の導入を行ってまいります。

6. 収支報告

項目	費用
生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり	1,800,000 円
コミュニティにおける災害対応及び気候変動適応能力強化	630,000 円
事業モニタリング費	610,000 円
交通費	280,000 円
ベトナム人件費 (スタッフ 4 名分)	1,470,000 円
ベトナム事務所管理費	210,000 円
東京本部管理費	1,250,000 円
合計	6,250,000 円

7. 活動写真



カンザオ区 Can Thanh 小学校での安全な学校づくり計画策定の様子



カンザオ区 Long Thanh 小学校で溺れる危険性の高い場所を発表する子どもたち



Can Thanh 小学校の教員によって作成された学校周辺の災害リスクマップ



Hiep Phuoc 中学校の水泳教室の様子



Can Thanh 小学校の避難訓練の様子



ヤギの飼育研修



スタディツアーの様子



ヤギの配布



各世帯でヤギの飼育を開始